

彦名通信

No. 154
平成20年10月



全国高専大会 陸上男子100m決勝の中間部分



インターハイ 卓球男子シングルス2回戦



インターハイ ヨット レース直前出廷準備

目次

イベント特集

- 学生主事より 2
- 主な成績一覧 2
- クラブ別報告 3・4・5
- オープンキャンパス 6・7

クラス便り

- 4年学年主任より 8
- 4年機械工学科 8
- 4年電気情報工学科 8
- 4年電子制御工学科 9
- 4年物質工学科 9
- 4年建築学科 9
- 専攻科1年 10

寮生会便り

- 寮行事紹介 10

研究活動

- 研究紹介 11
- 学会表彰 11

トピックス

- トピックス 12・13
- 後期行事予定 13

地域交流

- 公開講座・出前講座報告 14・15
- エンジョイ科学館 16
- 編集後記 16

クラブ活動 各種大会報告

学生主事 一般科目 山藤 良治

本年度の高専体育大会は、中国地区大会が7月4日～6日に米子高専を主管校、津山高専・広島商船高専を協力校として開催されました。本校は、米子地区開催の陸上競技、バレーボール、剣道、柔道、野球ほか全13競技にエントリーし、全国大会出場を目指して奮闘しました。その結果、ハンドボールの3連覇、バドミントン男子の2年連続の団体・個人全種目制覇をはじめ、優勝数は団体2種目、個人11種目と、昨年を上回りました。残念ながら優勝には届きませんでしたが、卓球の男子団体は優勝戦まで勝ち進み、大会3連覇中の強豪徳山高専をあと一歩のところまで追い詰めました。また、バスケットボール男子、剣道男子団体、テニス男子団体も3位に入賞。ともに惜しいところで全国大会出場を逃しました。学校対抗得点では水泳部が2位、陸上競技部が3位と健闘しました。

全国大会は8月17日～24日に北海道の各地で開催され、陸上競技、ハンドボール、バドミントン、卓球、水泳、剣道、テニスの7競技に総勢70人余の選手が出場しました。陸上競技男子4×100mリレーには2D古磯和樹君、5E森智広君、3D番原脩介君、4D遠藤俊君のメンバーが出場。予選、決勝ともに同タイムの41秒82の大会新記録で快走、優勝しました。遠藤君は100mでも優勝し連覇を果たしました。陸上競技部は6種目に入賞し、学校対抗得点でも本校初となる3位の成績でした。卓球男子ダブルスに出場した4M河野・4D大畑組、3C瀧・3E黒見組の2ペアはともに3位、水泳の男子200m平泳ぎの村尾君も2年生ながら3位に入賞しました。

3連覇を目指したハンドボールは、レギュラーの故障もあり決勝トーナメントに進めず、バドミントン男子団体も2回戦で優勝校北九州高専と当たり敗退しました。個人戦に出場した剣道、テニスも残念ながら入賞はなりませんでしたが。

主な成績一覧

中国地区高専体育大会 (平成20年7月4日～6日)

- 陸上 3位
- 男子100m 1位 4D遠藤 俊
- 男子100m 3位 2D古磯和樹
- 男子200m 2位 4D遠藤 俊
- 男子400m 1位 5E森 智広
- 男子110mH 3位 3D番原脩介
- 男子4×110mR 2位
- 2D古磯・5E森・3D番原・4D遠藤
- 男子4×400mR 3位
- 2D古磯・3D番原・4D遠藤・5E森
- 男子走高跳 2位 3D番原脩介
- 男子砲丸投 2位 2E森本大志
- 女子800m 3位 3A浦富明日香
- 女子4×100mR(オープン種目) 1位
- 3A浦富・2A高田・1C門脇・1A廣瀬
- バスケットボール男子 3位
- バレーボール男子 4位
- ソフトテニス男子 4位
- 卓球 2位
- 男子団体 3位 4D大畑諒輔
- 男子シングルス 3位 4M河野美雅
- 男子ダブルス 1位 4M河野・4D大畑
- 男子ダブルス 2位 3C瀧・3E黒見
- 柔道 4位
- 男子団体 4位
- 剣道 3位
- 男子団体 2位
- 女子団体 3位 4E稲田達憲
- 男子個人戦 3位 5A生田朗子
- 女子個人戦 3位
- 水泳 2位
- 団体 2位 2D武良優輝
- 男子100m背泳 1位 2A村尾太一
- 男子100m平泳 1位 2A村尾太一
- 男子200m平泳 2位 1A船越杏子
- 女子100m自由形 2位 1C中尾あかり
- 女子100m平泳 1位

- 女子50mバタフライ 1位 1C中尾あかり
- 女子50m背泳 3位 1A船越杏子
- 硬式野球 1回戦敗退
- サッカー 1回戦敗退
- テニス 3位
- 男子団体 3位 4D竹本博樹
- 男子シングルス 1位 5E小飯・4D竹本
- 男子ダブルス 1位
- ハンドボール 優勝
- バドミントン 優勝
- 男子団体 3位 4E下田 諒
- 女子団体 2位 2D宮原亮太
- 男子シングルス 1位 4E下田(泰)・4E下田(諒)
- 男子ダブルス 3位 4M長谷川・4D岡本

- 男子100m平泳 4位 2A村尾太一
- 男子200m平泳 3位 2A村尾太一
- 女子100m自由形 8位 1A船越杏子
- 女子100m平泳 予選敗退 1C中尾あかり
- 女子50mバタフライ 予選敗退 1C中尾あかり
- テニス 初戦敗退 5E小飯・4D竹本
- 男子ダブルス 予選リーグ 敗退
- ハンドボール 予選リーグ 敗退
- バドミントン 2回戦敗退
- 男子団体 2回戦敗退 4E下田 諒
- 男子シングルス 初戦敗退 2D宮原亮太
- 男子ダブルス 2回戦敗退 4E下田(泰)・4E下田(諒)

全国高専体育大会 (平成20年8月17日～24日)

- 陸上 3位
- 男子100m 1位 4D遠藤 俊
- 男子100m 6位 2D古磯和樹
- 男子200m 3位 4D遠藤 俊
- 男子400m 2位 5E森 智広
- 男子110mH 7位 3D番原脩介
- 男子4×110mR 1位
- 2D古磯・5E森・3D番原・4D遠藤
- 男子走高跳 予選敗退 3D番原脩介
- 男子砲丸投 予選敗退 2E森本大志
- 女子4×100mR(オープン種目) 6位
- 3A浦富・2A高田・1C門脇・1A廣瀬
- 卓球 3位 4M河野・4D大畑
- 男子ダブルス 3位 3C瀧・3E黒見
- 剣道 初戦敗退 4E稲田達憲
- 男子個人戦 初戦敗退 4E稲田達憲
- 水泳 予選敗退 2D武良優輝
- 男子100m背泳 予選敗退 2D武良優輝

その他の大会等

- 陸上(7月20日 国体予選)
- 男子走り高跳(少年男子A) 2位 3D番原脩介
- 男子砲丸投げ(少年男子A) 3位 2E森本大志
- 男子槍投げ(少年男子A) 3位 2E森本大志
- 男子円盤投げ(少年男子B) 3位 1E足立優樹
- 高校野球(7月12日 鳥取県大会) 一回戦敗退
- 放送部(7月23日～25日 NHK杯全国放送コンテスト)
- テレビドキュメント部門 制作奨励賞 3D豊見・1D長尾
- 卓球(8月5日、6日インターハイ)
- 男子シングルス 2回戦敗退 3E黒見見平
- ヨット(8月16日～20日インターハイ)
- 男子FJ級 23位 3E菅原・3D田邊
- 吹奏楽
- 8月6日全日本吹奏楽コンクール鳥取県大会 金賞
- 8月23日全日本吹奏楽コンクール中国大会 銅賞
- 合唱同好会
- 8月17日全日本合唱コンクール鳥取県大会 銅賞
- 将棋同好会(8月18日～20日全国高専将棋大会)
- 団体戦 予選リーグ敗退
- 個人戦 決勝トーナメント2回戦敗退 3D石田・3A砂場



野球部



ソフトテニス部



空手部



祝勝会の様子



祝勝会の様子

陸上部

顧問 一般科目 南 雅樹

■第43回全国高等専門学校体育大会（陸上競技）【8/16-17：函館市】

競技会の最終種目である男子4×400mRが終了した時に、ここ北の大地・函館の空の下で、本校陸上競技部初の団体総合（対校得点）の第3位が確定した。種目ごとに、総合3位の軌跡を紹介したい。男子100m：4 D遠藤が腰の痛みにながら全国2連覇に輝き、遠藤の影響を受けてメキメキと実力を付けている2 D古磯が自己新で6位に入賞を果たした。男子200m：腰痛のため本来の走りではなかったが4 D遠藤が3位で、この種目でも2年続けて表彰台に上った。男子400m：2年半の間主将を務め、春先の疲労骨折からこの大会に照準を絞り復帰した5 E森が5年間の思い・努力・苦勞を糧にして、残り30mからの劇的な追い込みで2位（自己新記録）を決め、喜びを爆発させた。男子110mH：惜しくもインターハイ出場を逃した3 D番原が、ハードルを倒しながらなんとか7位入賞で得点（2点）を獲得した。

男子4×100mR：第30回大会/1995において本校が大会新記録で優勝してから13年の時を経て、再び大会記録を塗り替えて優勝のテープを切る事ができた。部員には公言しなかったが持てる力から「優勝」の2文字は十分可能だと信じていた。予選、決勝と必ずしも完璧なバトンパスではなかったが、もう少しで全国高専記録に手の届く最強のチームになったと感じる圧勝のレースであった。



部員全員の集合写真



総合第3位の表彰

男子100mの表彰
(中央が2連覇の遠藤)

これ以外にも男子砲丸投（2 E森本）、女子4×100mR（3 A浦富、2 A高田、1 A門脇、1 C廣瀬）、そして補欠選手とマネージャーがそれぞれに応援やサポートに全力を尽くし得られた成果だと思う。最後に、多くの負担にも関わらずご理解を賜りました保護者の皆様に対して厚く御礼申し上げます。来年の南国宮崎でも、日頃の努力と支えてくれている人達への感謝の気持ちを忘れず「走って、跳んで、投げ」ます。ありがとうございました。

卓球部：インターハイ初勝利・ミニ国体出場・全国高専大会3位入賞

顧問 電子制御工学科 河野 清尊

この夏休みは、埼玉・山口・北海道と各地で自分達の力を試す機会を得ることができました。これらの大会に出場してたくさんのお話を学び、人間的にも大きく成長することができました。応援いただいたみなさん、また日頃からお支援・ご声援いただいているみなさんに深く感謝します。ありがとうございました。

■インターハイ

平成20年度全国高校総体卓球競技（兼第77回全国高校卓球選手権大会）が8月2日（土）から7日（木）まで春日部市総合体育館で行われました。昨年、男子シングルスで2名が初めてインターハイ出場を果たしましたが、今年も3 E黒見晃平が男子シングルスへの出場権を獲得し、卓球部としては2年連続の出場となりました。

大会4日目の1回戦。幸いにも持てる力をすべて出し切ることができ、昨年果たせなかった勝利を手にすることができました。卓球部としては記念すべきインターハイ初勝利となりました。大会5日目の2回戦は全国のレベルの高さをまざまざと見せつけられた試合でしたが、大変良い経験となりました。

【1回戦】黒見晃平 3-0 吉井矯大（和歌山・和歌山工高） 【2回戦】黒見晃平 0-3 教伝龍（佐賀・北陵高）

■ミニ国体

第63回国民体育大会中国ブロック大会卓球競技が8月16日（土）・17日（日）に萩市民体育館で行われました。少年男子（代表3名）の選手として3 E黒見晃平が、監督として私が鳥取県代表として出場してきました。今年は、中国5県のリーグ戦で上位2チームが本国体（大分国体）に出場できる年でしたが、広島に0-3、山口に2-3、島根に1-3、岡山に0-3で敗退し、0勝4敗の5位で本国体出場はなりませんでしたが、しかし、各県のトップ選手と対戦することができ、技術的にたくさんのお話を学ぶことができました。なお、本国体にストレート出場し、ベスト16に入った成年男子の予備登録選手として、県予選で4位に入った4 M河野美雅がエントリーされたこともあわせて報告します。

■全国高専体育大会

第43回全国高専体育大会卓球競技が8月23日（土）・24日（日）に釧路市厚生年金体育館で行われました。7月5日（土）・6日（日）に行われた中国地区大会では、団体は決勝で徳山高専に敗れ、男子シングルスも4 M河野美雅、4 D大畑諒輔ともに準決勝で敗れ全国大会出場を逃しましたが、男子ダブルスでは、4 M河野・4 D大畑組が優勝、3 C瀧康之介・3 E黒見晃平組が2位となり全国大会出場権を得ました。

全国大会では、4組による予選リーグをともに3勝0敗の1位で通過し、準決勝に進みました。準決勝は接戦になりましたが僅かに力および、両組とも3位という結果に終わりました。

【準決勝】河野美雅・大畑諒輔 2-3 濱田幸宏・濱田政紘（高知高専）

【準決勝】瀧康之介・黒見晃平 1-3 滝浦一樹・滝浦直人（一関高専）

結果は悔しいものですが、他高専の選手・先生と友好・親交を深めるという別の目的は達成できたように思います。来年こそは中国地区団体優勝と、全国大会での団体・シングルス・ダブルスの完全制覇を目標に、4 D村田洋一キャプテンを中心に一層努力して行くことを決意しました。



全国高専大会閉会式後会場内



インターハイ卓球会場

剣道部

顧問 電気情報工学科 松原 孝史

「釧路では、25℃以上になると暑くて仕事にならんベエー」と監督会議で学生主事の挨拶があったが、大会前後の釧路は最高気温が17℃くらいで真夏でも寒いと感じる別天地であった。会場の釧路高専第一体育館は、まさに寒冷地仕様で、第二体育館と廊下で繋がり暖房用のスチームパイプが天井に何本も張ってあるのが妙に印象に残った。

この全国大会男子個人戦に7年ぶりに出場権を得た4E 稲田達憲君の気力、体力は十分に満ちており存分の働きが大いに期待できた。対戦相手を観察してみると、茶髪に少し太り気味、あまり動かず応じ技が得意のようだ。しかし、打突力と技の冴えは相当なものだ。稲田のスピードをもって攻めまくれば必ず勝機はあるとアドバイスをする。稲田は、果敢によく攻めたが、攻めパターンが単調になったときに出小手をとられてしまった。対戦相手は、その後調子を上げて個人優勝をした。初戦で敗れはしたものの、稲田もそのような選手と戦えたことは、来年の北九州大会への大きな糧になったに違いない。

大会の合間に釧路湿原の観光に出かけた。雄大な大自然は、はるばる釧路まで来た我々に浩然の気を与えてくれた。写真は、湿原を横断する林道で撮ったものである。「ヒゲマ出没注意」の看板が北海道ならではの風景である。

最後に、会場まで応援に来ていただいた校長をはじめ中国大会からご支援いただいた教職員の皆様、そして剣道部の熱い仲間にご心よりお礼申し上げて筆をおく。



釧路湿原の林道にて

テニス部

5E 小飯 健太

今年の中国地区高専体育大会は津山市でありました。団体戦の初戦は広島商船高専に3-0で勝つことができました。2回戦では去年敗れた宇部高専と戦い0-3で負けてしまい目標としていた団体での全国大会出場はできませんでした。しかし、男子ダブルスで小飯・竹本が優勝し、全国大会への出場を決めることができました。また、男子シングルスでは竹本が3位という結果を残すことができました。

全国高専体育大会は、北海道の旭川市で開催されました。初出場ということで緊張感を持ちながら望んだ初戦、弓削商船高専と行った試合は7-9で敗れるという結果でした。接戦において大切な、重要な場面での1ポイントをとることができず、改めて勝つことの難しさを知ることとなりました。初戦で負けてしまったけれど、自分の実力は出し切ることができたし、全国大会を楽しむことはできました。また、全国大会に参加できたことはとてもいい経験になったと思います。今回サポートしてくれた学生たちも全国大会の雰囲気を感じ取ってくれたと思うので、これからの練習や試合に活かしてもらいたいです。

今までテニス部を支えてくださった、教職員をはじめ家族、OB・OG、BSCの方々には本当に感謝しています。これからも、来年度の全国大会を目指し頑張っている部員たちを応援よろしくお願いします。



全国高専大会での中国地区代表選手

水泳部

2A 村尾 太一

今年の水泳競技全国大会は、北海道立野幌総合運動公園温水プールで行われました。

優勝を目指し、挑んだ全国大会でしたが結果は昨年と同じく3位入賞に終わりました。

2年続けての入賞というのは嬉しいですが、悔しさの方が大きく残る大会になってしまいました。しかし、優勝は十分狙える位置にあるので来年への目標を持つことが出来ました。また、僕たち水泳部には大きな目標があります。それは、中国地区高専大会で団体優勝することです。男女とも年々チーム力は上がっており、今年の中国地区高専大会では、リレーの連覇こそはなりませんでしたが団体2位という結果を残すことができました。応援して下さる皆さんの期待に応えられるよう日々努力して行こうと思います。

ありがとうございます。



ハンドボール部

5E 岸 浩司

「感謝」、「仲間」……

私の5年間の部活動はこの言葉に尽きます。

中国高専大会が7月5日と6日に岡山県津山市で開かれ、私たちハンドボール部は準決勝、決勝ともどちらも1点差での勝利で苦しみながらも中国大会三連覇を成し遂げる事ができました。

準決勝の松江戦では前半5点差をつけられて折り返したときには、正直「無理だ、追いつけない」と思い、キャプテンらしくあきらめず頭を浮かんできませんでした。しかしコーチや仲間たちに励まされ、消極的な気持ちが「まだいける!」という気持ちに変わっていきました。後半5点差を逆転してこの試合を制し、決勝の宇部戦も苦しみながらも僅差で勝ち、優勝する事ができました。

全国高専大会では、予選リーグの初戦で、九州地区一位の八代と当たり、20対28で負けてしまいました。その瞬間全国三連覇の夢は破れ、悔しさと先輩たちに対する申し訳なさで涙が止まりませんでした。

中国大会前からレギュラーの怪我人が多く、全国大会でも開始早々レギュラーの一人が怪我をしてベストメンバーで臨む事が出来ず、悔いが残る大会になってしまいました。5年生の現役最後の試合となる釧路戦では、全員が楽しくプレーする事ができ、49対6という大差で勝利し、笑顔で終わる事が出来ました。

顧問の先生をはじめ、協力していただいた先生方、校長先生、そして、遠い北海道まで足を運んでくださった偉大な先輩方、全国前に練習試合をしてくださった境高校の方々、怪我をおして試合に出てくれた仲間、全力で応援してくれた仲間……私たちに関わってくれた全ての人たちに対して「感謝」の気持ちでいっぱいです。

全国三連覇という夢は叶いませんでしたが、この夢は後輩たちが必ず引き継いでくれると思います。本当に5年間ありがとうございました。



釧路高専戦を勝利して

バドミントン部

2D 宮原 亮太

バドミントン部は昨年、団体で念願の中国地区制覇を達成しました。しかし、僕は個人戦で全国大会に出場することができずとても悔しい思いをしました。2年になり、「今年は絶対優勝する」という強い思いをもって練習しました。大会が近づき、硬くなっていた僕は目標を「全国にいける最低ラインの2位」に切り替え気楽に頑張りました。

大会1日目の団体戦、順当に勝ちあがり迎えた決勝戦の僕の相手は山口県中学生大会2位の実績をもつ1年生でした。僕は個人戦シングルスでもあたる相手なのでまず勝って精神的にプレッシャーをかけておきたいところでした。試合は、練習の成果を十分発揮しストレートで勝利を収めることが出来ました。なにより試合を楽しむことが出来たので良かったです。2日目、僕は組み合わせで最も激戦区に入っていた上に団体戦とダブルスで疲れが来ていました。でも、僕は自分を信じ精一杯のプレーをしました。その結果、2回戦、準決勝ともに接戦を制し無事全国の切符をつかむことが出来ました。

夏休みはハードな練習に加え、練習試合や大会に出場して納得いく試合が出来たことで自分に自信を持つことができ、全国大会までいい状態で練習が出来ました。迎えた全国1日目の団体戦、僕は第1シングルスを担当されました。序盤こそ硬かったけど、途中から楽しく試合ができ、全国初勝利をおさめました。あとの2試合も勝ち米子高専は2回戦進出を決めました。2回戦、相手は全国9連覇中の北九州高専で、僕の相手は昨年全国3冠の5年生でした。途中までは競っていましたが、中盤以降自分で崩れてしまい負けました。結局米子高専は0-3で敗れました。2日目のシングルスでは自分の力を発揮できず初戦敗退でした。

こうして僕の全国大会は終わりました。この夏、僕は「努力は人を裏切らない」という言葉の本当の意味を身をもって実感することが出来ました。この経験はこれからの人生にも生きてくると思います。そして頑張れる環境を作ってくれた顧問の先生方やバド部のみんな、応援してくれた友



中国地区大会制覇で喜びのバドミントン部員

達や両親に感謝したいです。これからは自分の目標に向かい日々努力して、来年こそ中国大会を制して全国でも活躍したいです。

野球部：野球スコアボード新設

顧問 一般科目 森田 典幸

野球部3年生の保護者よりスコアボードが寄贈され、8月2日に右中間フェンス後方に設置されました。ボード作成と設置は共立製缶社にご協力いただき、数字板は野球部保護者の手書きによるものです。暑い日でしたが、熱心に作業にあたっていただきありがとうございます。秋季西部リーグ戦が本校グラウンドで6試合開催され、対日野高校戦(写真)より使用を開始し、観戦に来られた保護者や関係者の皆様より好評を得ています。今後もリーグ戦や練習試合で活用していく予定です。



新設スコアボード

放送部：第55回NHK杯全国高校放送コンテスト制作奨励賞受賞

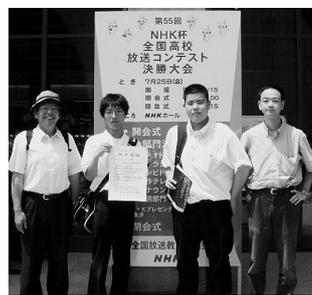
顧問 物質工学科 田中 晋

放送部は、同好会として発足してから12年目にして初めてNHK杯全国高校放送コンテストの鳥取県予選を突破し、7月23~25日に東京のNHKホール他で開催された全国大会へ出場しました。このコンテストは、アナウンスや朗読の技術を競う部門とテレビやラジオ作品の内容・技術を競う部門などから成っています。我々はテレビドキュメント部門に「寮生いっぽ×2 (いっぽいっぽ)」、創作ラジオドラマ部門に「就職率1000%な少年時代」という作品を制作・応募し、2本とも全国大会へ進出しました。

「寮生～」は、本校の1年寮生が苦労しながら寮の仕事をこなしている様子を追った約8分間のビデオ作品です。3D壘見啓太君が1年生に密着し制作しました。本作は、1日の寮生活が良く分かると評価され、準々決勝179本の上位40本に選ばれ、準決勝へ進みました。残念ながら決勝4本には残りませんでしたが、「制作奨励賞」を受賞しました。例年、鳥取県勢は準決勝まで進まずに敗退することが多い中、全国初出場でここまでの成績を残せたことは快挙と言えます。取材に協力していただいた寮生の皆さん、寮務部・寮務係の方々にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

「就職率～」は、将来に対して悲観的な学生とそれを指導する先生による就職の面接練習をコミカルに描いた約6分間のラジオドラマです。準々決勝で敗退しましたが、1D長尾武志君らによる原案がユニークで完成度が高い作品です。

2作品とも学園祭で上映しますので是非とも足をお運びください。



会場前で

ヨット部

3D 田邊 良

6月に広島県で行われた中国大会で入賞を果たし、インターハイの出場権を獲得することができた。全国の工業高専で唯一ヨット部がある米子高専で数年ぶりとなるインターハイ出場に達成感があった。しかし、出場に対しての不安や悩みも感じていた。本当にインターハイで全国を相手に通用するのか。そのように感じながらも残された少ない時間を本気で頑張る練習した。夏の炎天下の中や、風が全く吹いていない状態での練習は精神的、体力的にもとても大変だった。

そして迎えたインターハイは東京で行われた。現地についてからの練習では風がよく吹いておりとても良いコンディションだった。そのとき感じたのは「この風ならいける!」強風での走りが得意な自分たちにとってはとても有利な状況だった。そんな風を感じながら始まったレースは風が弱かった。全国の強豪達の走りに圧倒されながらもなんとか二十番台をキープできた。総合成績は23番だった。自分たちの中では悔しいと思いつつも、結果として受け止め10月に行われる国体に活かしていきたい。

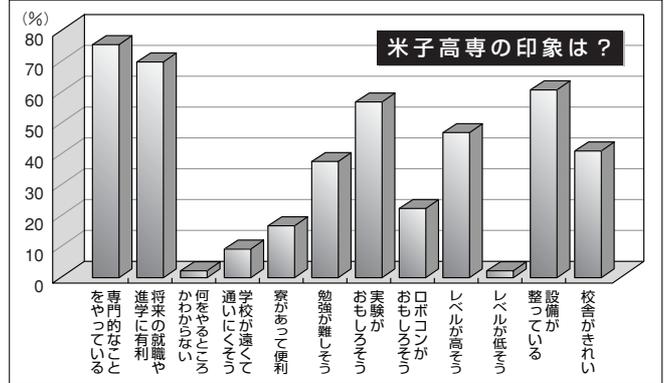
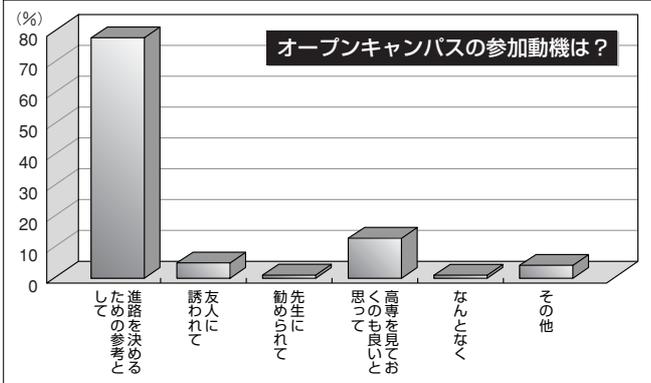
最後に自分たちを支えてくださった、顧問の先生方、コーチ、OBの方々に感謝したい。そして何より自分のクルーである菅原。お前と乗って本当に良かった。ありがとう!!



レース会場へ向かう田邊、菅原組(左側)

オープンキャンパス（学校見学会）

今年度のオープンキャンパスを、8月9日に中学3年生を対象として開催し、中学生220名、保護者および引率者85名という多数の参加を頂きました。学校全体の概要説明の後、希望する学科の見学、実習体験を午前、午後に分けて行ってもらいました。当日の様子をアンケート結果と合わせてお知らせします。



機械工学科



ものづくりセンター体験
機械工学科の学生の指導の下、旋盤の操作を紹介



環境にやさしいスターリングエンジンの設計製作紹介・実演中

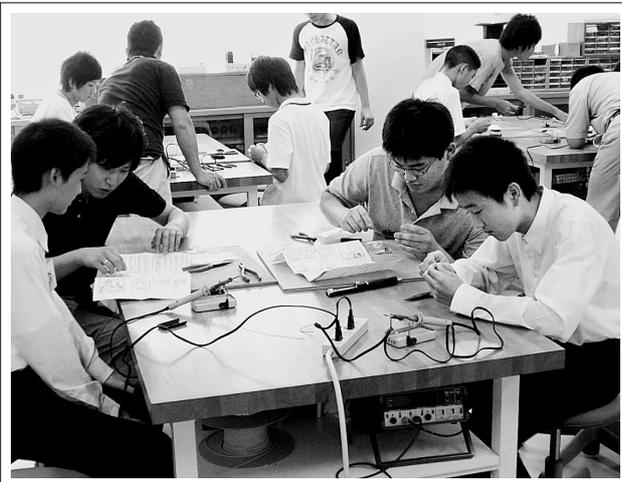


ロボコン用ロボットの設計製作およびデモンストレーション

印象に残ったことは？

- 専門的な研究、空気抵抗とか人工関節とかエンジンの研究もすごいと思った。
- 目的意識をしっかり持っていないとやり遂げられないように感じました。
- 先輩の学生さんが皆さんとってもさわやかで感じよかったです。
- ロボコンなどがとても楽しそう。

電気情報工学科



オープンラボの電子回路工作



電動スクータの走行制御と試乗



超音波による物体認識

印象に残ったことは？

- 自分で作ることで、初めてすることばかりだったのでいい経験になった。
- 高専は気難しい学校だと思っていたけど、楽しそうだったので行きたくなりました。
- 普通高校のように受験に縛られず好きな勉強ができてよいなと思いました。
- 専門的なことをやっていて難しそうだけど、やりがいがあると思いました。

■ 電子制御工学科



学科端末室でのプログラミング模擬授業の様子



脳波測定実験を体験している様子



自由見学時間、展示物を実際にさわって楽しんでいる様子

■印象に残ったことは？

- 脳波で電球をつけたりするのすごいと思った。
- 専門的な勉強を多くしているかと思っていたけど、楽しそうな実験が多くて面白かった。
- 5年生の人たちから説明を受けてとても優しい人たちだと思った。
- 高専についてよく分かり、とても楽しかった。

■ 物質工学科



液体窒素に花、ボール、ポリ袋に入れた空気を入れ、楽しんでいる様子



液晶ディスプレイのしくみについて学習している様子



生物に存在する酵素を用いた化学実験に取り組んでいる様子

■印象に残ったことは？

- 酵素の実験中、控え目な娘が積極的だった姿。
- 今までしたことのない実験ができて楽しかったです。絶対入りたいです！！
- 細かく説明してくださってとてもわかりやすかったです。
- 実験がとても楽しかったです。特に液体窒素を用いた実験など。

■ 建築学科



CADによる透視図の作成実習の様子



紙を折るだけで本の重さに耐えられるか！



鉄筋の引張試験の様子

■印象に残ったことは？

- 鉄を引きちぎるのがすごいと思った。
- いろいろな部門で優勝などしていてすごいと思った。
- レベルが高いと聞いていたけど、まさにそうだなと思いました。でも高専は普通の高校とは違って、将来のための大事な人材づくりをしているのですごいなあと感じました。難しいけど高専に入りたいと思いました。
- 先輩方が詳しく教えてくださり、とてもわかりやすかったです。

4年



学年主任 建築学科
片木 克男

第4学年の最大の目標は「出来るだけ早く進路を決め、そのための準備を始めること」です。夏休み中のインターンシップ（職場実習）は、その進路を見極めるための、またとない機会として用意されたものです。

実際、各学生は卒業後の進路を考えて実習先を決めており、今回の実習を通して進路に確信を持った学生も多いと思っています。進学希望者にとっても、実習は将来の職業像を明確にし、進学の意義を再認識する貴重な機会です。事実夏休み明け、大学・学科の選定や過去問題を入手しようとするなど、意欲的な動きもみられます。

ただ全体としては、まだ就職・進学に向けて計画的に準備を始めているとは言い難い状況にあります。インターンシップで得たさまざまな教訓を糧に、普段の勉強や課外活動を含め、これからの各学生の意識的な取り組みが一層重要となります。

■在籍学生数 () 女子の内数 【 】 留学生の内数

4M	4E	4D	4C	4A	計
42【1】	32(1)	41(2)【1】	37(18)	44(19)	196(40)【2】

機械工学科



地元企業のインターンシップを経験して 澤田賢太郎

私は鳥取市気高町に本社を置く気高電機株式会社にて5日間お世話になりました。気高電機では年に一度、社員の方の為に3次元CAD講習を行っており、その講習に3日間参加させて頂きました。初日は3次元CADの基本的な操作方法を教わり、2日目から

その講習に参加しました。最終日の5日目は3次元CADとCAMを用いてスタンプを製作しました。このインターンシップで企業は新入社員に大変期待し、社員に対する教育・福利厚生も充実していると感じました。就職の際ついつい県外の企業に目を向けてしまいがちですが、地元企業にももっと目を向けるべきだと思いました。

県外企業のインターンシップを経験して 丹波 享

私は三菱重工神戸造船所にお世話になりました。実習内容は、作業者の1日の行動を1分ごとにチェックし、その2日半のデータをExcelに入れデータ化し、データを元に作業効率をアップさせる方法の考察というものでした。短期間でしたが、普段の生活では意識しないことを学び、感じる事ができました。また、自動車運搬船の進水式を見ることができたり、他の高専生と交流ができたりと充実したものになりました。この経験を今後の学校生活に役立てたいと思います。

電気情報工学科



授業が活きた校外実習 井上 陽

今回夏季実習でお世話になった三菱重工業株式会社は、主に発電用ガスタービンの製作をされている会社でした。

僕の実習内容は、発電所の制御システムを学び、

ロジックを使用した装置を作製することでした。ロジックの作製は難しかったですが、完成する事ができました。また、このロジック作製では学校で学習した専門知識が応用でき、勉強が活きた実習でした。

最後に、夏季実習を通してお世話になった事業所や指導員の方々にお礼を申し上げます。

実習を通して学んだこと 山本 智

私が配属された中部電力㈱配電部門では、お客様と接することが多いのでお客様サービスを大切にしておられました。この研修中に実際に雷が落ちて停電した時は社員の方々が緊迫しておられました。一秒でも早く復旧しないといけないので、きびきびとしたチームワークで役割を果たしておられました。この実習で分かったことは、電力会社の責任はとても重いけどやりがいのある仕事だということです。

最後に、このたびお世話になりました中部電力の方々にお礼を申し上げます。

電子制御工学科



三菱電機ビルテクノサービス株式会社 伊藤 夕佳

東京の三菱電機ビルテクノサービス人材開発センターへ行きました。最初の4日間くらいは座学や見学でした。それから実際にシーケンス回路を設計し

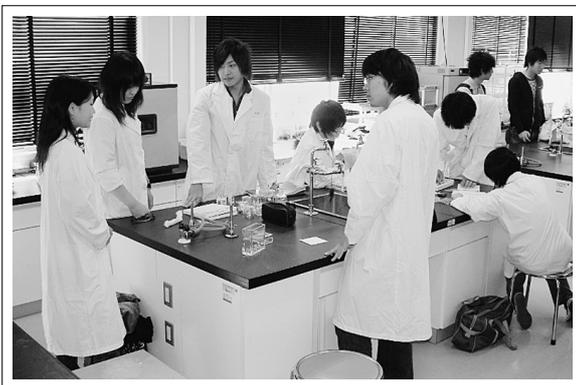
て組んでいきました。私達の班の配線の綺麗さは銀メダルものでした。最後に発表して他の班の回路を見たりしました。同じ課題でも全然違って驚きました。そして何より素敵な仲間が出来ました。また3月に会う約束をして号泣して別れました。本当に素敵なインターンシップでした。

古野電気株式会社

本池 悠輝

古野電気という会社で、10日間インターンシップを行いました。初めは名前も知らない会社だったこともあり、期待より不安が大きく、緊張もしていました。しかし、実際の職場では皆様に親切にいただき、慣れない環境の中でも仕事をこなし、その中で会社の雰囲気を知ることが出来ました。そして、今回のインターンシップで、そう遠くない未来に社会で働く自分というものが見えてきて、また実際に自分達が社会に出るのが近いのだと、改めて実感しました。

物質工学科



インターンシップを通して 山本 耕平

私がお世話になったのは和歌山県にある株式会社花王の研究所でした。実習では、洗剤などに含まれる界面活性剤の合成とその分析を行いました。研究

を始めた当初は、分からないことが多かったのですが、担当の方や職場の方が優しく指導してくださいました。インターンシップでは、今まで鳥取県の中でしか見えていなかった世界が大きく広がりました。全く知らない土地で、全く知らない人々に囲まれ、いろいろな面で鍛えられたと思っています。

インターンシップを終えて

後藤 美穂
本田真貴子

私達がお世話になった日東電工尾道事業所は、偏光板などを製造している所です。私達が配属された部署では、偏光板の試作品の性能試験を行ったり、偏光板の画面をより見やすくするための表面処理の技術を開発したりしていました。

実習を通して、多くの人とコミュニケーションを取り、情報を交換していく事の大切さや、開発者と現場で働いている人とが協力することで初めて一つの製品ができるのだということを学びました。

建築学科



設計事務所の実習で学んだこと 田村真美子

私は、神戸のMEG建築設計事務所で実習しました。実習内容のうち模型制作では（他にCADも）、ガラスケースの中に飾る白模型をつくりました。決められた空間の中で模型をカッコよく見せるために、

土台の高さや敷地の表現にとっても時間がかかり、今まで簡単に済ませていたことを反省させられました。また作業効率が悪く、自分の計画性の無さなどにも気づかされました。

これからは、ここで学んだことを忘れずに日々の生活に活かしていきたいと思います。

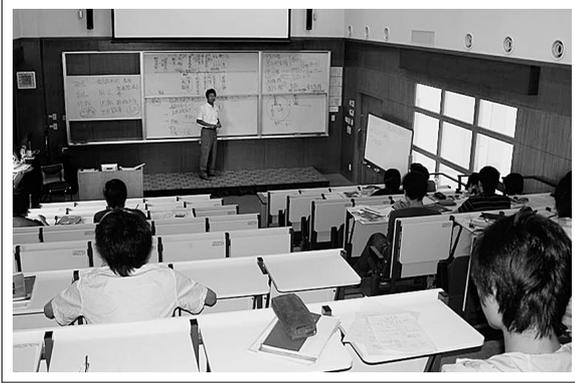
ハウスメーカーの実習で学んだこと 安田 祐二

僕がお世話になったのは大和ハウス工業(株)山陰支店です。

実習内容は地耐力調査結果の整理、住宅設計、分譲地や建築現場の見学でした。規格化が進んでいると聞いていましたが、見学した住宅には施主の要望を叶えたうえでちょっとした工夫もあり、設計者の住宅設計に対する思いと施主に対する心遣いを感じることが出来ました。

今までは将来の仕事は構造関係だけで考えていたのですが、今回の実習で住宅の面白さを実際に感じたので、視野を広げて考えようと思いました。

専攻科1年



専攻科に入学して

物質工学専攻
山田 雅隆

私は有機化学に興味を持ち、さらに知識、技術を習得するのに慣れた環境、本科とあまり変わらない授業料で学べる専攻科を選択しました。

入学して感じたのは、自分自身の力で考え行動することが必要であるということです。少人数のクラスでの授業や課題では、自分の考えを表すことが求

められ、また研究成果から学位論文を作成し学位試験を受けるため、研究の計画が必要だからです。しかし、就職にあたって大学生のように就職活動に大きな時間をとられませんし、本科5年次から計3年間の研究経験は大学院の進学へプラスになります。力を付けつつ余裕をもって将来を決められるのが専攻科のメリットであると思います。

専攻科に入学して

建築学専攻
潮 宏美

専攻科に入学してから本科のときと変わったことは、共通の科目があるので、他学科の人と交流しやすくなったことです。専攻科では、自分で選択した授業の組み合わせによって空いた時間を作ることができるので、その時間を利用して、資格試験の勉強などをして過ごしています。夏休みは大学と同じように8月半ばから9月いっぱいなのですが、今年の8月はインターンシップ、9月は日本建築学会の全国大会で研究発表などがあり、あっという間に休みも終わりそうです。10月からはもう就職活動が始まるので、目標をしっかりと定めて、勉強や就職活動をがんばりたいと思います。

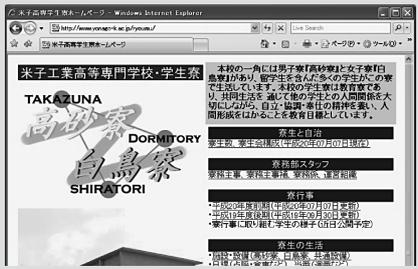
寮生会便り

高砂寮・白鳥寮における前期の寮行事等についてご紹介します。

H P

寮務主事補 電子制御工学科 井上 学

7月7日付で、寮ホームページを一新しました。基本デザインを変えただけでなく、アクセス性の改善と情報のスリム化を行いました。また、保護者の方や入寮を検討している中学生のために、寮生の実績紹介と新入生向けページ、FAQページの追加も行いました。皆さん、是非ご覧ください。



避難訓練

寮務主事補 建築学科 松野 一成

5月15日、火災発生を想定しての避難訓練を実施し、終了後消火器を使用した消化訓練、加えて寮生会役員は火災報知機の取り扱い説明を受け、充実した内容でした。これらの訓練の成果が発揮されないことが望ましいのですが、災害はいつ発生するかわからないので、寮全体で防災意識を高めることが大切です。



白鳥寮球技大会

体育委員長 3A 山本 桃璃

今年度の前期球技大会では、女子寮生と教員の方々とでバレーボールを行いました。先輩や1年生の協力のお陰で準備や片付けがスムーズに進み、みんながバレーボールを楽しむことが出来ました。急遽参加して頂いた先生方も楽しんで頂けて良かったです。協力して下さいました方々、本当にありがとうございました。



寮 祭

寮祭実行委員長 3C 山根 枝実

今年の寮祭も例年通り楽しく行うことができました。女子寮1年生の可愛いダンスや男子寮2年生の面白いダンスなどを行った焼肉会では特に盛り上がりだと思えます。5年生の先輩方にとっては最後の寮祭だったので、楽しい思い出の一部に残ってくれたらうれしいです。来年の寮祭実行委員長には、今年よりもっともっと楽しい寮祭にしたいと思います!!



花 火 大 会

文化委員長 2C 鐘撞 千秋

花火大会は、残念ながら寮祭の日にはできませんでしたが、大盛り上がりでした。盛り上がり過ぎて、地面に花火で文字を書く人まで現れました。最終的には叱られてましたけど…。わたしは写真係をしていましたが、みんな良い笑顔で素敵ショットをたくさんいただきました。花火の力は偉大です!来年もみんなの素敵ショットがたくさん撮れたらいいです。

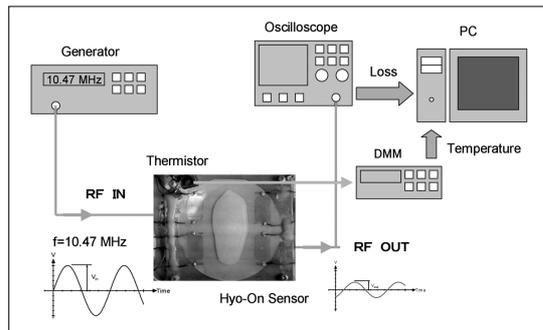


研究紹介

電子制御工学科 山本 英樹 研究室

通常、生体などは0℃以下で凍り始めるとされていますが、実際は、その中に含まれるアミノ酸などの濃度や生体防御反応などにより、それぞれ0℃以下の固有の温度まで凍らずに生き続けます。この0℃以下で凍結を始める固有の温度（氷結点）以上の領域を氷温域とよび、この氷温域を生体の高鮮度保持、高品質化などに用いている技術が氷温技術とよばれているものです。氷温技術では、生体の氷結点の検出が重要ですが、氷結点を簡単に測定するための装置が無く開発が望まれています。

本研究室では、ニオブ酸リチウムや酸化亜鉛薄膜などの圧電性基板上に微細加工技術を用いてアルミニウム蒸着膜で電極を作り、氷結点を検出するためのセンサおよびシステムの研究開発を行っています。



研究紹介

物質工学科 榎間 由幸 研究室

初めまして！榎間研究室では精密有機合成を基本とし研究しています。有機合成は医療品の合成を行う上で極めて重要な学問です。研究室のテーマの殆どが医薬品合成に重点を置き現在、本科5年生5人が日々研究に励んでいます。実験は反応の仕込み・反応追跡・後処理・精製・データ解析が一連の流れです。さらに研究室のセミナーとして輪読会、雑誌



実験室の様子（いい結果でますように）

会、研究報告会、反応機構勉強会などがあります。想像してみるとかなり厳しいように思われるかもしれませんが、和気相合とした雰囲気の中でみなさん頑張っています。また研究室内で親睦を深めるためにたこ焼きパーティー等もしています。最後に精密有機合成に興味がある方、学生生活の最後に何かをやり遂げたい方、一緒に頑張ってみませんか。



学外発表の様子（うまく説明できるかな…）

学会表彰

工作機械技術振興賞奨励賞を受賞

生産システム工学専攻 2年 小平 史悠

今年の3月に日本機械学会中四国学生会卒業研究発表会で講演を行った「水溶性切削液の経時変化に関する研究」が、第29回工作機械技術振興賞奨励賞を受賞しました。この研究は、金属加工の精度向上などのために使用されている水溶性加工液が、使用時間の経過に伴ってどのように変質していくかを1年近くにわたって継続的に測定したものです。長期間にわたる実験では苦労もありましたが、本科の卒業研究から引き続き研究を行ったことで、多くのデータを蓄積することができました。今後もひきつづき研究を行って、企業等にとって有益なデータを発信していきたいと思っています。

長期間にわたる粘り強い実験が評価を得る

特別研究指導教員 機械工学科 山口 顕司

小平君の研究は、地道な実験の積み重ねによって得られたデータが、企業などでも容易に得られるものではなく貴重である点が高く評価されました。研究は現在も続いており9月に東北大学で行われた精密工学会全国大会



でも最新のデータを発表してくれました。残る専攻科修了までの期間に、更に研究を進展させ、次の学生に引き継いでくれることを期待しています。写真は、贈賞式の模様です。

演劇鑑賞会

学生主事 一般科目 山藤 良治

6月25日(水)の午後から米子市公会堂で演劇鑑賞会を実施しました。3回目となる今年は、学校公演の草分け的な劇団として知られる「秋田雨雀・土方与志記念青年劇場」の「3150万秒と、少し」を鑑賞しました。学生にとっては数少ない演劇鑑賞の機会ですので、娯楽的な要素よりメッセージ性の強い作品をと考え、今回も「生と死」というテーマを扱った作品を選定しました。

舞台はいきなり悲惨な事故からスタート。ヒロインの女子高生二人は、スキー旅行先で雪崩に巻き込まれクラスメートと担任教師を喪い、自分たちだけが生き残る。二人は後を追って自殺することも考えるが思いとどまり、死んだクラスメートたち一人ひとりの叶わなかった夢を一つずつ実現していくなかで、死の重み、生きていくことの意味を実感する。

重いテーマでしたが、登場人物の軽妙なやりとり、若者らしいストレートな自己表現や周囲の大人との衝突等々、学生が共感できる場面も多く、劇団員の皆さんのメッセージはしっかり学生に届いていたようでした。



キャリア支援室より

キャリア支援室長 電気情報工学科 松原 孝史

6～7月のキャリア支援活動について報告します。

7月18日、1年生のHRで酒井副室長によるキャリア形成基礎講演がありました。講演内容は、若年層に急増するフリーターの悲哀をビデオを交えて分かり易く、生々しく語っていただきました。

7月2日には、人工網膜LSIの世界的権威である(株)三菱電機久間和夫氏の「夢のある研究開発」について5年生、専攻科生に講演していただきました。久間氏は、上席常務執行役開発本部長という多忙を極める職務の中、以前に三菱先端総合研究所でご一緒だった本校池田教授のご尽力で講演が実現しました。来校途中の車中でも、学生の興味を考えられて原稿を何度も推敲されたとお聞きし、そのご苦労に感銘を受けました。

7月17日、夏休み前日の特別日課では、4年生を対象に(株)富士通九州システムエンジニアリング顧問福浦義彦氏による「企業の求める人材像」についての講演を実施しました。採用する側の本音をズバリと話していただき、学生は大変興味深く聴講していました。

翌18日には、倉吉市商工会主催の企業見学会が実施され、4年生希望者18名と教職員2名が参加しました。見学先は、尾池ファインコーティング(株)、(株)明治製作所、オムロン倉吉(株)の3社です。県内企業の先端技術を知る大変いい機会になりました。



久間氏の講演会の様子



企業見学会の様子

「液晶人材育成プログラム」講座を開講

地域共同テクノセンター

鳥取県が進めている「液晶人材育成プログラム」講座が開講され、このほど米子高専で第一回目の講義が行われました。この講座は、鳥取県の製造品等出荷額等に占める割合が高い液晶関連産業(電子部品・デバイス、情報通信機器製造業等)について、産官学が連携して広く人材を育成するために、高校生から社会人までを対象とし、昨年の実証講義を経て今年度から開講されたものです。講師には液晶企業の技術者、大学教員などの他、この講座の教材開発を鳥取県からの受託研究で手がけた本校の教員も参加しています。今回の講義には、特別講義として本科・専攻科の関連学科の学生50人が聴講しました。学生は、企業の技術担当者から液晶の歴史、器材を使っている液晶の仕組みなどの講義に熱心に聞き入っていました。今後、高校、大学、社会人を対象にそれぞれ3ヶ月程度の講義期間に「液晶製造基礎課程」等の課程を受講し「液晶」について学習することになっています。



企業技術者の講義を聴く学生

「鳥取県・米子高専連携のための打って出る」シーズ発表会開催

地域共同テクノセンター

8月5日、米子市内でシーズ発表会を開催しました。「鳥取県・米子高専連携のための打って出る」と題したこのシーズ発表会は、米子高専と鳥取県との包括連携協定に向けての取組みの一環として、米子高専の研究シーズを広く地域へアピールするために開催したものです。鳥取県との受託研究、鳥取県に関連のある研究に取り組んでいる5名の教員が発表しました。

当日は、鳥取県、米子市をはじめ鳥取県西部地区の自治体関係者、企業、一般県民など当初の予定を上回る120名余りの参加者がありました。



地域に密着した研究発表に聞き入る参加者

米子高専の概要説明の後、環境問題、中山間地の抱える問題等を研究テーマとした発表に、時折身を乗り出してデータに見入る参加者もあり、予定時間を大幅に超える盛況の発表会でした。

鳥取県議会主催の「学生議会」に参加

一般科目 加藤 博和

8月12日(火)、鳥取県議会本会議場において「鳥取県の次世代を担う学生議会」が開催され、本校からは3D松本良子さんと4D和田泰治君が参加しました。議員役の松本さんは境港市の水木しげるロードを例に挙げて「観光振興による財政状況の改善について」質問し、和田君は答弁者(教育長役)として「鳥取県学校の今後のあり方について」の質問に対する答弁を行いました。県内の高校・高専・大学生29名がそれぞれの視座から県政の課題や今後のあり方をめぐって真剣な質問と答弁を重ね、互いに学び合う良い機会となりました。



平井知事・鉄永議長と参加学生による記念写真

ロボコン校内予選会

学生主事補 電子制御工学科 中山 繁生

高専ロボコン2008中国地区大会への出場を目指した3チームが、8月28日に開催された校内大会で熱戦を繰り広げました。今回の大会では、ロボットによる「歩行」が見所と言えます。しかし校内大会では、どのチームも「歩行」という大きな壁に苦戦している様子でした。

競技の結果、10月26日(日)に津山市で開催される中国地区大会には、電子制御工学科チームと機械工学科チームが出場することになりました。本番までの残された期間内で、満足の行くロボットを誕生させてください。

【校内大会出場チーム名】

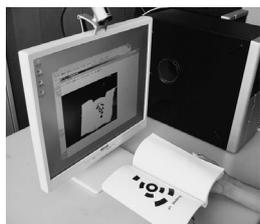
機械工学科「とりたま」 電気情報工学科「蜘蛛鳥人形」 電子制御工学科「Love it!!」



プロコン予選結果

電子制御工学科 河野 清尊

全国高等専門学校第19回プログラミングコンテスト「掘り起こせ!未知なる能力(パワー)」の予選(書類審査)が6月28日(土)にサレジオ高専で行われました。本校からは、課題部門に2作品、自由部門に2作品、競技部門に1作品の計5作品を応募し、以下の2作品が予選を通過しました。本選は福島高専を主管校にして10月11日(土)・12日(日)にいわき明星大学で行われます。詳しくは、プロコン公式サイト:<http://www.procon.gr.jp/>をご覧ください。



本型入力装置試作品

■課題部門 テーマ「ゆとりを生み出すコンピュータ」

作品名「BOOK・ON -新感覚ユーザインタフェース本型入力装置-」

5 D伊藤直美、5 D渡邊竜二、3 D笠見康敏、3 D北村裕介、3 D角田一樹、指導教員 河野清尊

■競技部門 テーマ「フラットと収集車」

作品名「午後の鰻」 コンピュータ同好会

3 D左久間一幸、3 M湊崎拓也、3 E澤下 陽、指導教員 倉田久靖

デザコン2008校内発表会

建築学科 高増 佳子

昨年度デザコンにて4部門中3部門の最優秀賞をいただいた本校建築学科ですが、今年もさらなる上位入賞を目指して課題に取り組んでいます。

今年度も空間部門、環境部門、ものづくり部門の課題を3年生から専攻科1年生までが取り組み、教員と学生による総合評価の高かった以下9作品を7月15日に校内で発表しました。校内発表会は学年別に授業で取り組んでいるこの課題作品の学年を超えた評価共有・作品改善の機会として毎年行っています。学生たちは夏休みに手直しをして9月に応募。入選結果は10月中旬で、本選は12月に高松で行われます。(構造部門は9月中旬に校内予選を行う予定です。)

【発表作品】

■空間部門 5年中本麻衣子・水島有梨・山根麻須美 5年安川大地・富谷広基

専攻科1年道家早紀 5年山本祥子・堀文 4年田村真美子

■環境部門 専攻科1年西尾亜由美 5年山本麻実 5年遠藤志穂・小原加衣

■ものづくり部門 5年生田朗子・林原正枝・小原加衣



校内発表会の様子

平成20年度行事予定(後期)

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1水		1土	文化祭	1月		1木	元旦	1日		1日	
2木		2日		2火		2金		2月		2月	
3金		3月	文化の日・片付け	3水		3土		3火		3火	
4土		4火		4木		4日		4水		4水	
5日		5水		5金	後期中間試験	5月		5木		5木	
6月		6木		6土		6火	月曜授業	6金		6金	
7火		7金		7日		7水		7土		7土	
8水		8土	中体(冬季)	8月		8木		8日		8日	
9木		9日		9火		9金		9月		9月	
10金		10月		10水	スポレク大会	10土		10火		10火	
11土		11火		11木		11日		11水	建国記念の日	11水	
12日		12水		12金		12月	成人の日	12木		12木	
13月	体育の日	13木		13土		13火		13金		13金	
14火		14金		14日		14水	学習到達度試験	14土		14土	
15水		15土	オープンキャンパス	15月		15木		15日		15日	
16木	特別行事	16日		16火		16金		16月	学年末試験	16月	
17金		17月		17水		17土		17火		17火	
18土		18火		18木		18日		18水		18水	
19日		19水		19金		19月		19木		19木	
20月		20木		20土		20火		20金	終業式	20金	卒業式
21火		21金		21日		21水	推薦入試	21土		21土	春分の日
22水		22土		22月		22木		22日	入試(学力)	22日	就職懇談会
23木		23日	勤労感謝の日	23火	天皇誕生日	23金		23月	入試(面接)	23月	
24金		24月	振替休日	24水		24土		24火		24火	
25土		25火		25木		25日		25水		25水	
26日		26水		26金		26月		26木		26木	
27月		27木		27土		27火		27金		27金	
28火		28金		28日		28水		28土		28土	
29水		29土		29月		29木		29日		29日	
30木	月曜授業	30日		30火		30金		30月		30月	
31金	文化祭準備			31水		31土		31火		31火	

夏季休業中の公開講座・出前講座

今年度も夏季休業中に本校教員や学生が参加してさまざまな公開講座・出前講座が実施されました。そのうちいくつかをご紹介します。

磁石でつくろう！魚ロボット工作教室

電子制御工学科 能登路 淳

8月23日に、小学校5、6年生とその保護者を対象とした公開講座「磁石でつくろう！魚ロボット工作教室」を開催しました。この講座は、卒業研究のテーマである「磁気アクチュエータ」を応用した科学教材「魚ロボット」を実際に子供たちに製作・体験してもらうことで、ものつくりの楽しさや科学の面白さを認識してもらう目的で開催したものです。

最初に基本的な作り方を補助学生から教えてもらい製作しましたが、その後は子供たちが色々な工夫を始め、当初こちらが考えもしなかった魚ロボットも誕生し、最後は全員がタイムトライアルに挑戦して大盛況のうちに終了しました。今後も子供たちに「ものつくり」「科学」の楽しさを伝えるため、このような講座を計画していく予定です。



最後に本講座を開催するにあたり、ご協力を頂きました本校教職員の方々並びにアシスタントの学生諸君に深く感謝いたします。

最後に本講座を開催するにあたり、ご協力を頂きました本校教職員の方々並びにアシスタントの学生諸君に深く感謝いたします。

絵本の読み聞かせに挑戦

学生課学術情報係（司書） 足立 美和

図書館情報センターでは、この度、学生図書委員が担当する「本を読む会」班を中心に学校近くの「彦名保育園」と、「保育施設あかしゃ」へ出向き、絵本の読み聞かせをしました。参加した学生は、緊張の面持ちのまま絵本を手に奮闘。園児達も、大きなお兄さん、お姉さん達に興味を持ち、すぐに打ち解ける場面も。学生達は、園児達の屈託のない質問や感想にとまどいながらも次第にアドリブを入れたり、擬音などを入れて、楽しませてくれました。

今回、コミュニケーションの道具となった絵本ですが、この経験が彼らにとって、人間関係づくりのヒントとなり、これからの社会で生きていくための心の豊かさを創造していく糧となってくれたらと思います。



彦名保育園での「本を読む会」

「初心者のためのパソコン教室」を開催しました

図書館情報センター 電気情報工学科 奥雲 正樹

8/4～8/28の6日間、社会人を対象とした公開講座「初心者のためのパソコン教室」を図書館情報センターで開催しました。初心者を対象とし、Windowsの基本操作からWord、Excelの基本的な使い方を学習し、Excelで作成した表やグラフ、また写真などを貼り付けたWord文章の作成を目標としました。短期間で多くを学習するためにペースが速くなる事もありましたが、受講者のみなさんは仕事で使用する方が多く熱心に受講され、無事に計6回を終わらせることができました。今後も図書館情報センターではこういった講座を行っていく予定です。



最後に、本講座開催にあたりご協力を頂きました本校図書館情報センターの教職員の方々および補助学生にこの場をかりて厚くお礼を申し上げます。

「中学生のためのプログラミング入門」を開催しました

図書館情報センター 電気情報工学科 奥雲 正樹

図書館情報センターでは情報教育の一環としてこのような講座を計画し、積極的に行っています。その一環とし、中学生を対象とした公開講座「中学生のためのプログラミング入門（米子高専Robocode Cup2008）」を8/26、27の2日間、開催しました。プログラミング言語Javaの学習用ツールとしてRobocodeというロボット対戦シミュレータを用い、受講生にロボットの動きをプログラミングしてもらい、他の受講生の作成したロボットと試合を行ってもらいました。補助学生と受講生がチームを組むことで個性的なロボットが数多く見られ、試合を盛り上げてくれました。本講座を開催するにあたりご協力を頂きました本校図書館情報センターの教職員の方々および補助学生の面々に深くお礼を申し上げます。



『親子ふれあい科学教室』を終えて

電気情報工学科 榎田 英功

本年度は5年目を向かえ連休の中（7/20）という悪条件にもかかわらず12組24名の参加者がありました。テーマは、なるほど電子工作『FM・AMペットボトルラジオを作ろう！』、おもしろ化学実験室『スライム・イクラ・電池・金を作ろう！』の2つを午前と午後で入れ替えて行いました。電子工作は、家庭で使わなくなったペットボトルを利用したラジオを組み立てます。ペットボトルの加工・取り付けに親子ともども悪戦苦闘していました。化学実験室では、カラフルなイクラ、手から手へどこまでものびるスライム、銅板が銀色や金色へ変わっていく様子が歓声が響き渡っていました。事後のアンケートでは、満足度100%、親子とも完成したときの喜び、補助学生の親切な指導を挙げていました。本講座を開催するにあたり御協力を頂きました本校教職員の方々、ならびに熱心に指導にあたってくれました補助学生の面々に深く感謝致します。



ペットボトルラジオ製作中

学生のサポートに感謝

電子制御工学科 井上 学

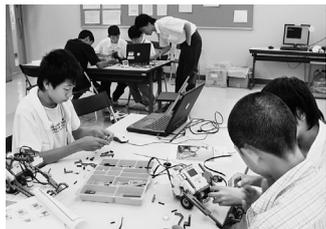
8月2日に、電子制御工学科・実験室で、小学生と保護者を対象に公開講座「親子で楽しむロボットづくり教室」を開催しました。公開講座を担当するのは初めてで、非常に緊張し説明も思うようにできないところがありましたが、補助学生（専攻科学生と本科学生、うち留学生1名）のサポートもあり、無事終了することができました。参加者全員から「楽しかった」という回答を頂き、自由欄にロボットが完成するまで対応した学生スタッフへの感謝の言葉もありました。説明資料の作成から手伝ってくれた学生達に感謝するとともに、こうした経験から何かを学んでくれればと思います。



レゴ・マインドストームによる米子高専ミニロボットコンテスト

機械工学科 権田 岳

8月2日(土)～3日(日)の日程で、本校機械工学科アトリエにおいて公開講座「レゴ・マインドストームによる米子高専ミニロボットコンテスト」を実施しました。中学1～3年生を対象として、合計12人の参加がありました。本年度は、レゴ・マインドストームを使用した自動制御ロボットによるミニロボットコンテストを開催し、1チーム3人の計4チームが工夫をこらして独自のロボットの組立と自動制御プログラムにチャレンジしました。



本講座を開催するにあたりご協力を頂きました機械工学科教職員の方々、補助学生の面々、またご協賛いただいたマツダ財団に深くお礼を申し上げます。

小学生対象の工作教室

建築学科 松野 一成

米子高専と米子市の連携事業の一環で小学生を対象とした工作教室を、7月26日(土)、27日(日)は米子市児童文化センターで、8月21日(木)、22日(金)は淀江文化センター(さなめホール)で開催いたしました。この連携授業は子供たちのためだけに行うものではなく、米子高専の学生が地域の子供たちとのふれあいを通じ、コミュニケーション能力を高めることも目的であり、今回は4日間に4名の学生が参加してくれました。両会場とも初日が低学年、2日目が高学年対象で、初日の低学年向けの工作(飛び出す建築)は比較的簡単なもので高専の学生が大きく手を加えることはありませんでしたが、2日目の高学年向けのもの(フラードーム地球儀)は悪戦苦闘する子供たちの対応に追われておりました。教室終了後は参加した子供たちも楽しかったと喜んでくれ、学生たちも人に“もの”を伝えることの難しさを体験できた非常に良い経験となりました。



リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう

技術教育支援センター 上田 輝美

8月2日(土)、本校で公開講座「リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう」を実施しました。昨年に引き続き2回目となる本講座では、小学3、4年生20名がアイデアを生かし、段ボールなど身近にある不用品を使ってオリジナルなインテリア雑貨を作り、工作を通してものづくりの楽しさを味わうとともに環境問題を考える講座となりました。作品が完成するたびに歓声があがる楽しい雰囲気の中、講座を無事終了することができました。



最後に、本講座の開催にあたり、諸手続きや部屋の提供などでお世話になった本校関係者ならびに、材料をご提供下さいました多くの教職員の皆様に、この場をかりて厚くお礼申し上げます。

こども科学体験教室

一般科目 越智 信彰・物質工学科 田中 晋・電気情報工学科 権田 英功

出前講座「こども科学体験教室」は、地域の小中学校の子どもたちに理科・工学に関する様々な実験をしてもらい講座で、毎年数多くの依頼をいただいております。特に今年は、夏休み期間だけで20件を超える依頼がありました。いくつかの依頼は日程が重なってしまい、お断りせざるを得ないほどでした。

講座では、体育館や公民館などにいくつかのブースを設け、「液体窒素で遊ぼう」「真空実験」「ホバークラフトを作ろう」「ロボコンのロボットを動かしてみよう」などのテーマの実験を行います。補助員として、本校B&C同好会、物理実験同好会、卒研などの学生も参加しています。子どもたちは目を輝かせ、大きな歓声をあげながら楽しんでくれています。本講座を通して、理科好きの子どもたちが増えていくことを願っております。



夏季休業中の地域貢献活動実施状況

イベント名	開催期間	会場	参加者数
親子ふれあい科学教室	7/20	本校	24
エンジョイ科学館	7/25	本校	44
リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう	8/2	本校	20
親子で楽しむロボットづくり教室	8/2	本校	35
レゴ・マインドストームによる米子高専ミニロボットコンテスト	8/2.3	本校	12
初心者のためのパソコン教室	8/4. 7. 11. 21. 25. 28	本校	13
磁石でつくろう! 魚ロボット工作教室	8/23	本校	14
中学生のためのプログラミング入門	8/26. 27	本校	6
マイコンによるロボット・コントロール入門	8/26	倉吉未来中心	3
こども科学体験教室	7/12. 19. 28. 30. 31 8/2. 5. 6. 10. 17. 19. 21 22. 23. 25. 28	弓ヶ浜小、義方小、富益川上子供会、中浜公民館、名和公民館、あいみ児童クラブ、彦名小、外江小、会見小、溝口公民館、ビッグベアーズ余子公民館、赤江小、江府町防災情報センター、上道公民館	計789
高専ロボコンのロボットを動かしてみよう	7/29. 8/5	県公民館、誠道公民館	計39
世の中で活躍しているロボットたち	8/8. 8/20	大篠津公民館、彦名小	計26
天体観望会	8/9	彦名小	30
飛び出す建築工作	7/26. 8/21	米子市児童文化センター、淀江文化センター	計57
科学体験教室	7/26. 27. 8/7. 8	米子市児童文化センター、淀江文化センター	計124
フラードーム地球儀	7/27. 8/22	米子市児童文化センター、淀江文化センター	計56
ロボコンのロボットを動かそう	8/1	淀江文化センター	21
デザコン2007三冠達成展覧会	8/7～10	米子市文化ホール	186

エンジョイ科学館

これは昨今言われている子供達の「科学離れ」への対策として本校で中学1、2年生を対象に続けている催しです。今年は7月25日に開催し、合計44名の参加がありました。本校の学生による丁寧な指導が毎年好評を得ています。



機械館

ロボコン(^o^)y シューターをつくろう

- 自分で作ったロボットを作るだけでなく対戦などもしてけっこう充実した内容だった。また今回同じようなことがあればきたい。
- ロボットに興味があったので、今回、参加できてとても楽しかった。



電気情報館

エアシュートサッカーロボをつくろう!!

- エンジョイカップなどの自分で作ったものを使って競えるというのが良かった。来年もまたきたい。
- 今日はいろいろなものをつくったりしてるとき、やさしくお兄さんが接してくれてわかりやすかったです。



電子制御館

センサーロボットを作って走らせよう!

- とても楽しかった。先生たちがやさしく教えてくれた。
- 途中、ハプニングがあったけれど完成できて良かったです。



科学捜査館

DNA鑑定で犯人を捜そう!!

- とてもおもしろかった。DNA、遺伝子について詳しく知れてよかった。自分のDNAを調べてみたかった。
- 難しそうだなと思っていたのですが、先生方や高専の学生の方々がやさしく教えて下さったので、わかりやすかったです。



建築館

家具デザインに挑戦!カッコイイ椅子をつくろう

- 楽しかった。高専の人たちが優しく教えてくださった。また来年もきたいと思った。
- 簡単でももしろくてかっこよかったです。今日ここにきてあらためてこの学校に3年後かよいたと思います。



理科館

宇宙旅行☆シ マイ・プラネタリウム

- はじめて米子高専にきてどんなことをしているのかわからなかったけど、この講座にきて高専って楽しいんだなあ~と思いました。
- 星座を探したりして、楽しかった。星の名前も覚えたと思う。夜に空を見て今日説明された星を探してみたい。

編集後記

今号は、クラブ活動報告・地域交流活動報告が盛りだくさんとなりました。紙面へのご意見・ご感想を、メール (hikona@yonago-k.ac.jp) にてぜひお寄せください。
 ※記事において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。
 M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科
 例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL：0859-24-5023 FAX：0859-24-5029 印刷：(有)米子プリント社
 E-mail：hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/⇒メニューより「キャンパスライフ」